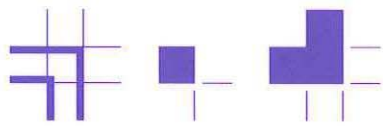


udc

歩行者モール読本



歩いて楽しむ商店街を演出する景観資材のあり方

はじめに

多くの都市では、中心市街地の再生が大きなテーマになって、十数年が経過しています。

平成10年にはまちづくり三法のかたちで都市計画法の一部改正をはじめとした各種の取り組みが総合的に展開されましたが、都市の核となる中心市街地の衰退は依然深刻化しており、その再生が政策的な課題となってきました。

この間、中心市街地をとりまく問題や課題は、個別の商店の経営や集積としての商業の領域のみに限ることなく、都市を取り巻く社会システムの変化の中でとらえ直す必要が生じてきたという経過があります。

今後、多くの都市で、改めてまちの中心部の役割をとらえ直すとき、商店街が歩行者にとってどのような姿であるべきかを議論し、商業活動中心の視点でなく、公共性を持った自由な空間としてどのような活動の場として位置づけるべきかが求められることになるだろうという合意に達しました。

今回、製品情報研究部会では、こうした観点から、現在の都市がおかれている状況にたいして、[1] これまでの中心市街地の特に商店街を取り巻く状況と活性化における対応を概観することで、歩行者モールのあるべき役割を部会として整理し、[2] 現在の中心市街地の再生をめぐる課題や議論をふまえて、歩行者モールとして受け入れる必要がある都市活動の新たな内容を検討し、[3] 集積する商店全体で実現すべき空間や活動のための環境づくりをどのようにとらえていくべきかを研究の目的として検討を進めました。

冊子の作成にあたっては、現状の認識のために首都圏の賑わいのある商店街を19地区選び、実際に現地を観察すると共に、行政や関係団体から状況の確認を行い、賑わいのある歩行者モールに必要な空間構成や環境の発見とそれらを成立させる素材や構成部材のあり方について課題解決の方向を議論し、整理とりまとめを行うことにしました。

この冊子が、賑わいを実現する歩行者モールづくりの一助として役立てば幸いです。

財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター
製品情報研究部会

目次

はじめに	2
第一章 総論	3
調査の視点	4
調査検討の流れ	5
中心市街地の課題	6
街なかに求められ視点	7
商業環境の変化	8
街なか中心部の復権	8
街の新たな利用者像	9
代表的な消費傾向	10
モールの社会的役割	11
屋外空間の活動	12
環境と魅力要素	14
商店街の景観の考え方	15
商業空間を快適化する要素	16
第二章 モールの分類	23
モールの分類	24
モールの種類構成	26
第三章 調査事例 / 19 地区	27
第四章 ヒアリング調査	67
賑わいづくりに関するヒアリングの結果	68
その他のヒアリング結果詳細	69
モールの評価	74
第五章 研究部会からの提言	75
舗装材	76
視覚障害者ブロック	77
排水蓋	77
ベンチ	78
照明灯	79
サイン	80
マンホール	80
プランター	81
上屋	81
柵・車止め	82
樹木保護蓋	83
製品情報部会名簿	84
あとがき	85